

2023年7月24日

阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社  
社長 大西雅之 様

一般社団法人北海道自然保護協会  
会長 在田 一則

### 貴社回答「『阿寒摩周国立公園の満喫プロジェクト（自然体験ツアー）における夜間の利用形態に係わる意見と要望』に対するご回答」への質問と要望

当協会は、これまで環境省に阿寒摩周国立公園において行われている「カムイルミナ（夜間の自然体験ツアー）」などの満喫プロジェクトには自然保護の観点から反対である旨を申し述べ、また貴社へも昨年12月23日に「阿寒摩周国立公園の満喫プロジェクト（自然体験ツアー）における夜間の利用形態に係わる意見と要望」を提出いたしました。それに対して、本年1月27日に貴社から「『阿寒摩周国立公園の満喫プロジェクト（自然体験ツアー）における夜間の利用形態に係わる意見と要望』に対するご回答」をいただきました。

しかし、いただいた回答は私たちには満足できるものではありませんので、ここに阿寒湖畔における「カムイルミナ」に焦点を当てて、改めて問題点を指摘し、中止を求めるとともに、1月27日にいただいた貴社の回答について質問をいたします。

#### 1. カムイルミナ対象地の自然の特性とカムイルミナの問題点

当協会が提出した要望・意見（2020年10月9日および2021年3月16日に環境省環境大臣ほか宛、2022年12月23日阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社社長宛ならびに2023年3月8日釧路市長宛）において、カムイルミナについて以下問題点を指摘しました。

ボッケ周辺の「噴気孔原」では、高い地中および地表面の温度の環境下で生育・生息する南方生物の隔離分布が特記されます。具体的には、維管束植物カヤツリグサ科のアカテンツキ、蘚類のヤマトフデゴケなどの南方系植物の生育、そして南方系コオロギ類（マダラスズ、ツツレサセコオロギ、およびハラオカメコオロギ）の生息が知られています。ボッケ周辺の噴気孔原は冬季の積雪が皆無であり、あたかもビニールハウスで被われたように局所的な温暖気候となり、冬季にコオロギが鳴く特異な生態系を形成しています。また、カムイルミナの周遊路周辺では、亜寒帯針葉樹であるエゾマツやトドマツ、および温帯性落葉広葉樹が種々の程度で混生した針葉樹林、針広混交林、および広葉樹林からなる自然林が発達し、国指定天然記念物のクマゲラをはじめとして多種の鳥類や哺乳類などが生息しています。

私たちの要望・意見は非常に重要な自然に対する保護の観点を指摘しておりますが、上記三者の回答には、保全策を講じる姿勢がまったく認められません。私たちの要望と質問の要点を再掲すると、以下の通りです。

「夜間の光（照明）・音響・煙霧という、自然状態ではまったく認められない演出を実

施することは、何よりも野生動物に対する影響が計り知れない。この事業主催者と国立公園管理者は、事業実施によって、森林内に生息する野鳥を初めとする動物への影響を事前に把握しているのか、事前にどれだけの野鳥類が営巣・生息していたのか、噴気孔原のコオロギ類がどの程度生息していたのか、事後にはどのような影響があったのか、なかったのかなどを、十分に調査し、予測し、十分な対応を考えているのか。『夜間の照明・仮想映像、音響・煙霧』という自然にない演出は、影響有無の証明が困難とも考えられるので、『予防原則』の観点から中止すべきである」。

## 2. 貴社の「『阿寒摩周国立公園の満喫プロジェクト（自然体験ツアー）における夜間の利用形態に係わる意見と要望』に対するご回答」（2023年1月27日）について

当協会は2022年12月23日付貴社宛の「阿寒摩周国立公園の満喫プロジェクト（自然体験ツアー）における夜間の利用形態に係わる意見と要望」において、「カムイルミナ実施前（2018年以前）、開催中および本年終了後の環境モニタリング調査の実施回数とその期間、および調査の内容と得られたデータをお知らせください。また、カムイルミナ実施がボッケ周辺の動植物へ与えた影響について、実施前後の比較分析結果に基づく現在までの評価をお知らせください」と要望しました。それに対して、2023年1月27日に標記の回答をいただきました。以下にいただいて回答の問題点を指摘します。

- (1) 回答においては、「この度お問い合わせいただきましたカムイルミナ実施前（2018年以前）に実施した環境調査資料につきまして、下記の通りお知らせいたします」として、「カムイルミナ環境アセスメント 2018年以降の調査概要」が18ページにわたる「調査一覧」が付されています。事業による環境への影響を知るためには、事業開始前の環境調査が重要であることは言うまでもないことですが、「カムイルミナ環境アセスメント 2018年以降の調査概要」の内容は一部を除き、2019年以降のものであり、当協会が要望したカムイルミナ実施前（2018年以前）のではありませんでした。
- (2) 「環境アセスメント」とは、事前に環境への影響を調査・予測・評価を行い、深刻な公害や自然破壊を防ぐためのものです。本件の場合は、上記要望のように環境モニタリング調査とともに、「実施前後の比較分析結果に基づく現在までの評価」を要望しています。しかしながら、「カムイルミナ環境アセスメント 2018年以降の調査概要」は、調査結果の資料（表）のみであり、調査結果の評価がまったく欠けています。クマガラの営巣や生息にどのような影響があったのか、あるいは影響がなかったのかについて、評価の結論が示されていません。「環境アセスメント」というからには、専門研究者による調査方法の吟味、結果における影響の有無の評価が必要と考えます。
- (3) 以上の基本的問題の他にも、回答では、植物についてはボッケ遊歩道両側1mの範囲、利用者の滞留が想定される13ヶ所では15m×15m程度を調査範囲としたと記されていますが、特異な環境である噴気孔原植生を特徴づけるアカンテンツキが調査されていません。また、動物については、鳥類と小型哺乳類が調査されているが、噴気孔原という特異な生態系を指標する隔離分布するコオロギ類についてはいっさい調査されていません。「夜間の照明・仮想映像、および音響・煙霧」という自然にない演出と多数の参加者がリズムスティックで地面を揃って叩きつける振動が、極めて希少なコオロギ類へ悪影響を与えることが危惧されます。したがって、コウロ

ギ類を含む昆虫類およびその生息地域がアセスメントの対象とされていないのは大きな問題です。

- (4) 鳥類については、とくに国指定天然記念物のクマゲラ、オジロワシ、およびハイタカが確認されています。クマゲラについては、2018年の営巣確認、2018～2019年の現地確認・聞き取り調査、そして2021年と2022年のモニタリング結果が示されています。しかしながら、調査結果の表のみで、クマゲラの営巣などの行動や生態にどのような影響があったのか、あるいは影響がなかったのかについての評価がまったく欠けています。

### 3. 結論と要望

国立公園は、自然保護上また生物多様性保全の上でも重要な地域です。そこでの「夜間の照明・仮想映像、音響・煙霧」という自然には存在しないカムイルミナの演出は、生物多様性保全上、大きな危惧を抱かせる事業です。したがって、事業の実施前、実施中および実施後における十分な比較に基づく専門家による影響評価のない現状では、阿寒湖畔でのカムイルミナ実施は反対いたします。

まずは、上記のように、1月27日にいただいた回答は、当協会の要望趣旨にそうものでありませんので、モニタリング結果の評価を含めた環境アセスメントの本報告書を提供くださるよう再度要望いたします。